

あなたの光を輝かせよ

マタイの福音書 5章 13-16節

はじめに

私がウェルカム・サンデーで説教をする時は、マタイの福音書 5-7章に書かれている、イエス様が語られた「山上の説教」からお話しています。

イエス様は、ガリラヤ地方を巡って福音を宣べ伝え、様々な病や痛み苦しむ人々を癒されました。その結果、イエス様の評判はシリア全域に広まって、大勢の人々がイエス様のもとに来て、イエス様に従うようになったのです。

このイエス様に従うようになった人たちに語られたのが、マタイの福音書 5-7章に書かれている「山上の説教」です。

今日の聖書箇所ではイエス様は、「あなたがたは地の塩です」「あなたがたは世の光です」と言われます。イエス様は、イエス様に従うようになった人を「地の塩」「世の光」と言われるのです。

1. あなたがたは地の塩です

13節でイエス様はこう言われました。「**あなたがたは地の塩です。もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけです**」。イエス様を信じ従うクリスチャンは、この地上で「塩」としての役割を果たすために生かされているということです。ただイエス様は、塩にはどんな役割があるということまでは具体的に語っていません。

塩というのは、料理の味付けのために用いられたり、食品が腐るのを防ぐために用いられたりします。旧約聖書では、神様との契約が「塩の契約」（民数記 18：19、Ⅱ歴代誌 13：5）と呼ばれたりします。それは、神様の約束は腐らない、変わらないからです。

イエス様を信じ従うクリスチャンは、この世の腐敗を防ぐために生かされています。私たち人間は、神様に造られましたが、人類最初の人であるアダムとエバが神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、罪の性質を持つようになりました。神様との交わりを失い、神様と隣人を愛するよりも、自分を愛するようになりました。その結果、皆が自己中心に生きるようになり、あらゆる悲惨や犯罪が世に蔓延るようになりました。

そのような世の中に、神の子であるイエス様が人となって来られ、私たちの罪を十字架で贖い、私たちと神様との交わりを回復する道を開いてくださったのです。そしてイエス様を神の子、救い主と信じる者を新しく生まれ変わらせ、神様に従う人間本来の生き方を示してくださいました。

イエス様を信じ従うクリスチャンは、この世に神様を愛し隣人を愛する人間本来の生き方を示し、この世の腐敗を防ぐために生かされています。塩は、塩辛いと言われるように、辛いものです。辛さの反対は、甘さと言えます。クリスチャンは、この世の中を甘くするために生かされているのではなく、辛くするために生かされているのです。人に対して甘いというのは、寛容であるとか大目に見るという意味で使われます。一方、辛口な言葉というのは、人の間違いを指摘したり、はっきり物事を言うことです。クリスチャンは、ある意味で寛容であり、赦す心に満ちていなければなりません。しかし何でもかんでも大目に見て、間違いを指摘しないというではありません。クリスチャンは、甘いだけでなく辛さも持っていないといけないのです。クリスチャンが甘いだけなら、世の中はどんどん腐敗していきます。クリスチャンは、辛さを持たなければ、塩味を持たなければならないのです。そうでなければ、「何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけ」なのです。

甘いだけのクリスチャン、優しいだけのクリスチャンは役に立たないのです。何が正しくて間違っているのかをわきまえ、この世に妥協せずに、間違っていることにははっきりと指摘する、そのような辛さ、塩味がクリスチャンには必要なのです。この世に妥協して、世の中の人と何にも変わらない生き方をしていたら、何の意味もないのです。

私たちが日常に食べている食品のほとんどは、植物性のものか動物性のものに分かれませんが、塩はそのどちらにも属さない珍しい食品だと言われます。日本で作られる塩は、海水を煮詰めて出来たものです。どんなに技術が発達しても、塩に代わるものを人工的に作ることはできないそうです。それに対して砂糖や酢などは、他のものでも代用できるそうです。その意味で、塩は代用の利かない唯一無二の存在と言えます。イエス様も、「もし塩が塩気をなくしたら、何によって塩気をつけるのでしょうか」と言われているように、塩以外に塩味を付けることはできないのです。

クリスチャンも、代用の利かない唯一無二の存在です。クリスチャンが塩味を失ったら、世の中の腐敗はどんどん進んで行くのです。その意味で、クリスチャンが生かされている意味は非常に大きいのです。しかし日本においては、クリスチャンは人口の1%しかいません。職場や学校において、クリスチャンはほとんどいません。家庭においても、自分一人がクリスチャンであるということもあるでしょう。しかし料理においては、最後の一つまみの塩が味を整えます。塩を入れ過ぎると、辛くて食べられません。しかし全く塩がないと美味しくありません。ごく少量の一つまみの塩が料理を豊かなものにします。私たちクリスチャンは、職場においても学校においても家庭においてもわずかかもしれません。しかし私たちクリスチャンがいるのといないのとでは大きく違います。私たちが塩味をしっかり保てば、私たちの職場も学校も家庭も腐敗が防がれ、より豊かにされるのです。

神様はアブラハムに、もし罪で腐敗したソドムの町に10人の正しい人がいるなら滅ぼさないとされました(創世記18:22-33)。神様は、イエス様を信じ従う私たちクリスチャンのゆえに、私たちの職場や学校や家庭を祝福してくださるのです。私たちはそのために、甘さだけでなく、塩味を失ってはならないのです。この世に妥協して流されていくので

はなく、聖書の御言葉に立って、しっかりと自分の意見を語らなければならないのです。

2. あなたがたは世の光です

14-16節でイエス様はこう言われます。「**あなたがたは世の光です。山の上にある町は隠れることができません。また、明かりをともして柵の下に置いたりしません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいるすべての人を照らします。このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです**」。イエス様を信じ従うクリスチャンは、この世の中で「光」としての役割を果たすためにも生かされています。光は暗闇を照らすものです。神様との交わり失い、皆が自己中心に生きる世の中は、あらゆる悲惨や犯罪が満ちた暗闇です。しかし聖書はこう言います。「**神は光であり、神には闇が全くない**」(ヨハネ 1:5)。またイエス様はこう言われます。「**わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます**」(ヨハネ 8:12)。神の子であるイエス様は、この世の暗闇に光をもたらすために人となられたのです。そしてそのイエス様を信じ従うクリスチャンを、この世の光としてくださるのです。

私たちクリスチャンは、この世の暗闇を照らすために生かされているのです。イエス様は16節で、「あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです」と言われました。私たちはどうやってこの世の中の暗闇を照らすのでしょうか。それは、「良い行い」を通してです。私たちは「良い行い」をすることによって、この世の中の暗闇を照らし、輝いて生きることができるのです。

では「良い行い」とは、何でしょうか。イエス様はこのマタイの福音書5-7章で、具体的に「良い行い」とは何かを語っています。しかし今日言えることは、ここで言われている「良い行い」とは、人々が「天の父をあがめる」ようになるような行いですから、神様が求めておられることに従うことです。光である神様またイエス様が求めておられることに従う時に、私たちも光輝くことができるのです。

イエス様がここで言われていることは、あなたがたの光を隠してはならない、人々の前で堂々と輝かせなさい、ということです。塩が塩味を失ったら意味がないように、光も隠れていたら意味がありません。この世に妥協して流されているは、私たちの光は輝かないのです。この世に妥協して流されるのではなく、神様に従い、イエス様に従っていく時に、私たちの光は輝くのです。

私たちクリスチャンは、職場や学校や家庭において、光として生かされています。私たちはそれぞれの場で、「良い行い」を通して光り輝くことが求められているのです。私たちは、言葉を通して人々に神様のすばらしさを伝え、人々が神様をあがめるようになることも大切ですが、その前に私たちの「良い行い」を通して、人々が神様をあがめるようになることが大切なのです。私たちが語る言葉は、「良い行い」があってこそ力を発揮するのです。「良い行い」のない言葉は、人々の心を開くことはできません。私たちの職場や学校や家庭では、

必ずしも言葉で神様のことを伝えられないかもしれませんが。私たちは、私たちの「良い行い」だけで人々が神様をあげめるようになるような生き方をしているのでしょうか。私たちが何も語らなくても、私たちの生き方だけで、私たちの行動や振る舞いだけで、人々が神様をあげめるような歩みをしているのでしょうか。私たちの生き方だけで、人々が神様を感じ取るような歩みを、イエス様は私たちに求めておられるのです。

おわりに

イエス様を信じ従う私たちクリスチャンは、この世の中に生かされている意味があります。私たちはイエス様から、「地の塩」として「世の光」として生かされています。私たちは、この世の腐敗を防ぐために生かされています。またこの世の暗闇を照らすために生かされています。私たちは決して塩味を失ってはいけません。また光を隠してはいけません。この世の中に妥協して流されて生きるのではなく、しっかりと神様とイエス様に従い、語るべきことを語り、神様とイエス様が求めておられる「良い行い」を示していかなければなりません。そうして人々が、神様をあげめるようにしていかなければなりません。私たちはそのような使命を、イエス様から与えられているのです。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは生まれながらに罪の性質を持ち、神様との交わりを失い、自己中心に生きてきました。この世の中はあなたを愛さず、隣人を愛さず、あらゆる悲惨と犯罪に満ちています。しかしあなたは、この世の中に神の子イエス様を遣わし、私たちを暗闇から救い、「地の塩」「世の光」としてくださいました。どうか私たちがこの世の中に流されて塩味を失い、光を隠すことがないように。塩味の利いた光り輝く存在として、それぞれの職場や学校や家庭で、あなたに従い、語るべきことを語り、語らずとも私たちの生き方を通して、あなたを証していくことができますように。私たちのゆえに、私たちの職場や学校や家庭を祝福してください、人々があなたをあげめるようにしてください。

私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。